

「日々の分配を公平に」

2016年03月24日

使徒言行録6章1節～7節。そのころ、弟子の数が増えてきて、ギリシア語を話すユダヤ人から、ヘブライ語を話すユダヤ人に対して苦情が出た。それは、日々の分配のことで、仲間のやもめたちが軽んじられていたからである。そこで、十二人は弟子をすべて呼び集めて言った。「わたしたちが、神の言葉をないがしろにして、食事の世話をするのは好ましくない。それで、兄弟たち、あなたがたの中から、“霊”と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい。彼らにその仕事を任せよう。わたしたちは、祈りと御言葉の奉仕に専念することにします。」一同はこの提案に賛成し、信仰と聖霊に満ちている人ステファノと、ほかにフィリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、アンティオキア出身の改宗者ニコラオを選んで、使徒たちの前に立たせた。使徒たちは、祈って彼らの上に手を置いた。こうして、神の言葉はますます広まり、弟子の数はエルサレムで非常に増えていき、祭司も大勢この信仰に入った。

エルサレム教会に集まった人々は持ち物を売り払い使徒たちの足もとに置き、皆が必要に応じて分かち合う共有生活をしていた。互いの間に愛が息づき、不足することのない喜びに満ちた信仰共同体であった。ところが、ギリシア語を話すユダヤ人からヘブライ語を話すユダヤ人に対して苦情が出た。ギリシア語を話すユダヤ人とは異国で生活していたユダヤ人（ディアスポラ）で、彼らは当然、生まれ在所のギリシア語を話していた。彼らは帰国して、エルサレム教会に加わり、安心と満足を得ていたが、彼らの中のやもめたちが日々の分配で、食べ物や衣服に関して、ユダヤ在住のユダヤ人から不公平に扱われるようになった。夫が死んで傷心の思いで帰国したギリシア語を話すやもめたちは貧しく、話し相手もなく、寂しい思いをしていたであろう。その彼女たちが差別され、日々の分配が平等にいかない事態が生じた。弱い立場の者たちが後回しにされることは、どの社会でも見られることであるが、喜びと悲しみを共にするエルサレム教会でも起こった。ここには、主イエスの再臨による終末が遅延していることから生まれた要素もあったと思われる。

苦情が出た時、使徒たちはすぐに対応した。全ての人々を呼び集め、提案した。自分たち使徒は祈りと御言葉の奉仕に専念したい。日々の食事が公平に行き渡るように、霊と知恵に満ちた評判の良い人を7人選んで、彼らにその務めを任せよう。提案は一同の賛成を得た。そこで、ステファノ、フィリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、アンティオキア出身の改宗者ニコラオの7人が選ばれた。これら7人は皆、ギリシア名を持ち、ギリシア文明を知るヘレニストのユダヤ人である。ギリシア語を話すやもめたちの思いを理解する人々が選ばれたことにエルサレム教会の深い配慮があったことが分かる。教会も人が集まる所であるから、悩ましい問題が起こり得る。起こった時、すぐに解決する手立てをし、殊に弱い立場の人を支える体制を取ることが大切である。使徒たちは選ばれた7人の上に手を置き、按手して務めに任命した。福音は力強く宣教され、クリスチャンは非常に増えていった。復活を否定する祭司たちも加わったという。おそらく、不満を募らせていた下級祭司たちであっただろう。

選ばれた7人は日々の分配が公平に行われる務めに着いた訳であるが、この後、ステファノとフィリポは素晴らしい宣教者として登場してくる。教会の業に関わる者は全て宣教者として用いられるということである。